

街路樹

「自然離れ」を考える

5月

子どもの「自然離れ」が進んでいる。

東日本大震災、原発事故から4年が過ぎ、その影響を心配しているところであるが、「自然離れ」それ自体は、以前から指摘されている。

今の時代、子どもたちにとっての自然とは、忌み嫌われ、時として人間と対峙する存在であるかのように思っているかも知れない。「自然は人間が制御する存在である」という意識が社会の中で強まっているように感じられる昨今、ともすれば、生き物を育てることを「臭い、汚い、気持ち悪い、面倒以外の何者でもない」と捉えてしまう子どもがいてもおかしくはないようにも思う。

しかし、教育基本法の第2条(教育の目標)には、「**生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。**」とある。また、学習指導要領解説「総則編」(平成20年8月)には、第1章総説に「(前略)、国語をはじめとする言語に関する能力の重視や体験活動の充実により、**他者、社会、自然・環境とかわる中で、これらとともに生きる自分への自信をもたせる必要がある**」との提言がなされた。実社会では自然を「人間と敵対する存在」と扱いながらも、国の方針は「自然を理解し、共生できる子どもを育てよう」と謳っているのである。この理想(国の提言)と現実(「自然は人間の敵である」と思いしまいかねない実社会に溢れる様々な情報、状況)のギャップにこそ、「子どもの自然離れ」を解決するヒントがあるのではないかと考えている。

レイチェル・カーソンは、その著書「**センス・オブ・ワンダー**」において、『妖精の力にたよらないで、生まれつきそなわっている子どもの「**センス・オブ・ワンダー**」(神秘さや不思議さに目を見張る感性)をいつも新鮮に保ちつづけるためには、わたしたちが住んでいる世界の喜び、感激、神秘などをいっしょに再発見し、感動を分かち合ってくれる大人がすくなくともひとり、そばにいる必要がある。』と書いている。大人が子どもに「教える」のではなく「**大人もいっしょに驚き、いっしょに感動し、いっしょに生きていることの喜びを感じる**こと」が大切だと言うのである。私は、この「いっしょに」驚いたり感動したりしてくれる大人(教職員)の存在が、子どもたちにとっての理想と現実のギャップを埋める役割を果たせるのではないかと感じた。教師と子どもがいっしょになって驚き、感動する教育(授業)を進めていくことによって、『**センス・オブ・ワンダーの心**』が醸成されていくのではないかと。欲を言えば、「本当に自然は人間の敵なのか」や「自然と人間が共生するためには何が必要なのか」などの実社会において挙げられる数々の自然に関する問いに、自分なりの答えが出せる子どもたちが増えていくのではないかと理想を思い描いてしまう。「**自然離れ**」を考える今こそ、その理想のための一歩を踏み出すチャンスではないだろうか。



生徒指導って？

生徒指導とは、「児童生徒自らがその社会的資質を伸ばすとともに、社会的能力を獲得し、さらに、その資質や能力を適切に行使して、自己実現を図っていくことを願い、児童生徒の自発的かつ主体的な成長・発達の過程を支援していく働きかけ」のことです。

たとえば、こんなことも生徒指導です。

○授業の場面で

始業開始とともに着席し、正しい姿勢で机に向かい学習することを指導する。



○道徳教育や特別活動の場面で

友人関係について考えてみたり、異なる学年や世代の人と積極的に交流したりする機会や場を与えて活動させたりする。

○教育相談の場面で

自分自身について悩んだり、人間関係に傷ついたりした児童生徒を受けとめ、次の一歩を踏み出させたりする。

このように生徒指導には幅広い働きが含まれます。しかし、これらは従来から当たり前に行われてきたものです。

ここで問題としたいのは、こうした当たり前のことを生徒指導の働きかけという自覚のもと、全ての児童生徒を対象に、計画的かつ確実にやっているか、自信を持って答えられるか、またそのような体制になっているかです。

学校の実態を踏まえて、意図的・計画的な生徒指導について考えてみませんか。

国立教育政策研究所 生徒指導リーフ 参照

研修講座のお知らせ & 感想

<研修講座のお知らせ>

前年度好評だった「NetCommons」を活用した「HP作成講座」が夏季休業中に開設されず。概要は以下の通りです。

○ HP作成講座 (NetCommons活用)

日時：8月6日(木)14:00~16:20

会場：総合教育センターPC室

講師：県教育センター指導主事

その他：使用できるPC台数の都合上、人数に制限があります。

★ 前年度の感想から

- ・ HP作成作業が身近なものになった。
- ・ 実際に操作をしながら研修を行えたので、よく理解することができた。



現在、多くの学校が使用している「スクールWebアシスト」同様、記事の更新が簡単に行えます。前年度は年間の研修計画になかったのですが、研修の場を望む声が多く、急遽実施しました。今年度は、年間の研修計画に入りました。ぜひこの機会に昨年度未受講の先生方の受講をお待ちしています。